



my blues road

会員 黒寄 隆 <50期>



メンフィスのブルースマン達と共に

ミシシッピリバーに沿ってアメリカ合衆国シカゴからニューオーリンズまで続くルート61。

友人と2人でメンフィスでレンタカーを借りてルート61をニューオーリンズまで南下する旅をしたのは10年ほど前になる。

メンフィスから南下するにしたがって左右に広大な綿花畑が広がってゆく。メンフィスで買ったオーティスラッシュ（ブルースミュージシャンです）のテープ（このころはまだカセットテープの時代でした）を聴きながら綿花畑の中を続く一本道を運転し、ブルースの本場に来た実感に酔いしれたことを鮮明に覚えている（話はそれだが、今年のニューオーリンズの災害はとても人ごととは思えない。「ハリケーンエイドジャパン」など日本の音楽関係者が中心となって立ち上げた基金があるのでよろしくお願いします）。

ブルースは、19世紀後半にアメリカ合衆国南部で、奴隷制度のもとで差別を受けながら綿花畑などで重労働を強いられていた黒人たちがその苦しさを紛らわせるために歌ったり演奏していた音楽である。基本的に12小節3コード進行というだれが決めたかわからない形式があり、歌詞は「毎日つらいよ、なんとかならんかね」とか「朝起きたら彼女が出て行っちゃって死にたくなった」とか「月曜日はほんと

にいやだね」とかどうでもいようなものが多いのだが、なぜかこの歌詞がブルース進行のむせびなくギターやブルースハーブにあわせて歌われるとグッとくるのである。

南部ミシシッピで生まれたブルースはその後20世紀前半に多くの黒人労働者とともにミシシッピリバーを遡って北部の大都市にたどり着き、特にシカゴでエレキトリックバンドスタイルのブルースが開花した。そして、1960年代には、ローリングストーンズ、ジミヘン、クリーム（クラブトンがいたバンドです）などのブルースに影響を受けた強力なロックバンドが次々と登場した。私も高校生のときにこれらのロックバンドのルーツということを知りかじってブルースを聴き始め、一旦はギターを手にしたがものにならず、レコード、CD、DVD収集の道を走ってきた。

私は大学3年時の交通事故が原因で車いすでの生活を送っているが、事故後、自分の障害のことで落ち込んでいたとき、そして司法試験受験を決心して長い受験生活で苦しかったときなど、よくブルースを聴いて癒されたものである。

普段もブルースのライブなどを聴きにいたりするが、今般趣味が高じて、とうとう自分でブルースバーをつくってしまった。

ライブも週末を中心に（不定期ですが）やっています。

ブルース、そしてその影響を受けたロック、ジャズ、R&Bなど、お酒と料理を一緒にどうぞおためし下さい。

Blues Dog Café

港区六本木3-4-31 サマセット六本木ビル1階

(六本木交差点から六本木通りを溜池方面に5分くらい歩いた右側)

TEL. 03-5114-6950

<http://www.bluesdogcafe.com/>